

都市ヨークにおける初期中世装飾石彫の製作

都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室 岩永玲

はじめに

初期中世のブリテン諸島では、装飾を持つ自立式の石造物（初期中世装飾石彫、以下「石彫」と呼ぶ）が製作された。本報告では、都市ヨークで発見された石彫のうち、特に中心的な役割を果たす施文面に同じ獣像を持つ石彫群に焦点を当て、その変遷について意匠と製作技術の面から探る。

研究史における課題

- ・意匠中心の議論：技術面に対する理解が遅れる
⇒製作技術を復元し、意匠の議論に組み込む必要あり
- ・様式論に依拠した編年：分類基準が主観に左右されやすい
大局の把握に特化しており、個別資料の系譜を追いくい
共伴遺物の伝世を考慮しない年代推定
⇒型式学的検討に基づく詳細な相対編年を提示する必要あり

ヨークI類の製作と変遷

ヨークI類：耳・羽・紐状に延長する胴を持ち、口に紐を咥え、後方を振り返り、側面形で描かれる獣文を主像とする一群

- 意匠：獣文を構成する諸要素から型式学的変遷を追うことが可能
 - ・左右の対の描き分け：段階1→段階2→段階3の順に変化
 - ・獣の鼻先の装飾：槍先形→中間形→水滴形の順に変化⇒時間経過にともない、左右で対となる獣の描き分けや鼻先の装飾が本来持つ意味への認識は薄れていくが、全体としての獣の形態に著しい崩れは認められない
- 施文技術：変遷の段階に関わらず、一貫した技術で作られる
 - ・文様線どうしの交差部に対し、遠距離からの削り出しをおこなう
 - ・文様線の断面が角丸台形状を呈する
 - ・余計な工具痕を残さない⇒高い技術水準を持つ工房が存在

ヨークII類の製作と変遷

ヨークII類：細長い身軀に前肢・後肢を持ち、身軀から伸びる組紐状の紐と絡み合い、側面形で描かれる獣文を主像とする一群

●意匠

- ・2種類の獣の描き分け：製作期間を通して存続
- ・獣の細部表現と表現の巧拙：獣を構成する要素が揃っており表現が巧みであるものと、獣を構成する要素をところどころ欠き表現が拙いものがある

●施文技術

- ・文様線どうしの交差部を、基本的に緩勾配の削り出しで表現
- ・面取りを施すものは断面が角丸台形状を呈する

●獣の表現と製作技術の関係：以下の3つの可能性が考えられるが、絞り込みは困難

- ・割付の水準のみが時間経過にともなって下がった可能性
- ・割付と彫刻技術の両方の水準が時間経過にともなって下がった可能性
- ・工房差、もしくは特定の工房内の製作者の技量差が表れている可能性

ヨークI類とヨークII類の相対編年

ヨークI類とヨークII類に共通する獣文：ヨークII類では獣が本来備えるべき要素への認識が薄く、ヨークII類に特有の獣文が持つ要素の混入を招く
⇒ヨークII類のほうが後出

課題

- ・変遷案の新古の順の検証
- ・ヨークで発見された獣文以外の文様を持つ資料の編年
- ・金属製品や写本等を含むより広範囲の編年への石彫編年の組み込み

主要参考文献

- Hope-Taylor, B. 1971. *Under York Minster: Archaeological Discoveries 1966-1971*. The Dean and Chapter of York, York.
- Lang, J.T. 1991. *Corpus of Anglo-Saxon Stone Sculpture Vol. III Eastern Yorkshire*. Oxford University Press, Oxford.
- Phillips, D. 1985. *Excavations at York Minster Vol. II The Cathedral of Archbishop Thomas of Bayeux*. Royal Commission on the Historical Monuments of England, London.
- Townend, M. 2014. *Viking Age Yorkshire*. Blackthorn Press, Pickering.

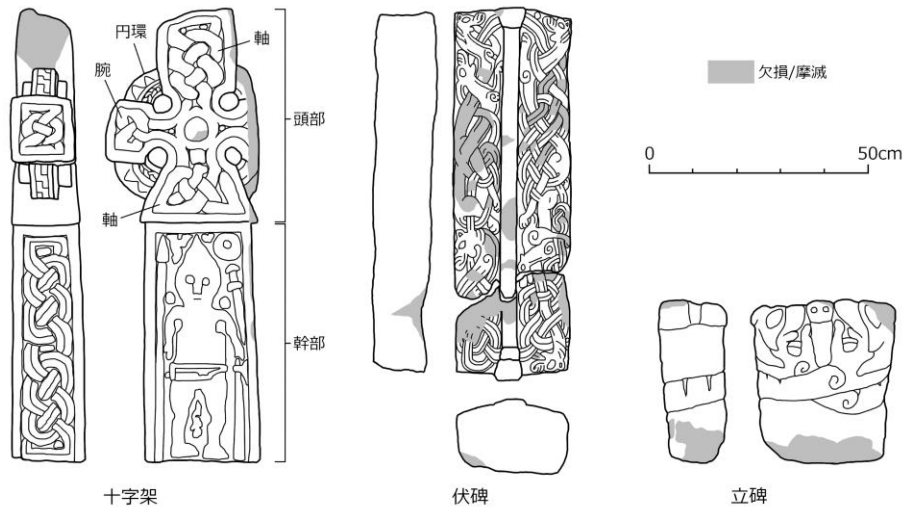


図1 初期中世装飾石彫の器種と部位名称

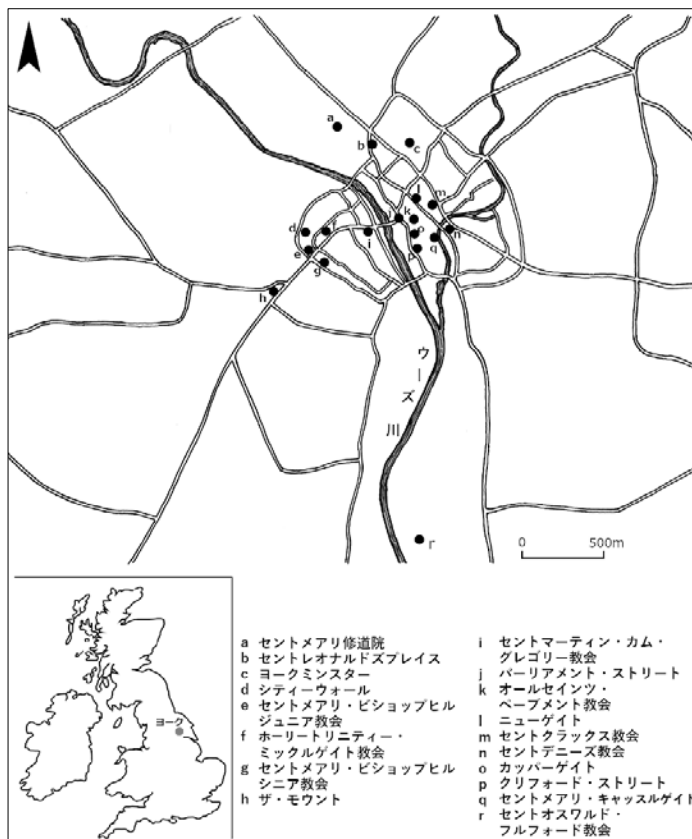


図2 ヨーク市内の初期中世装飾石彫発見地

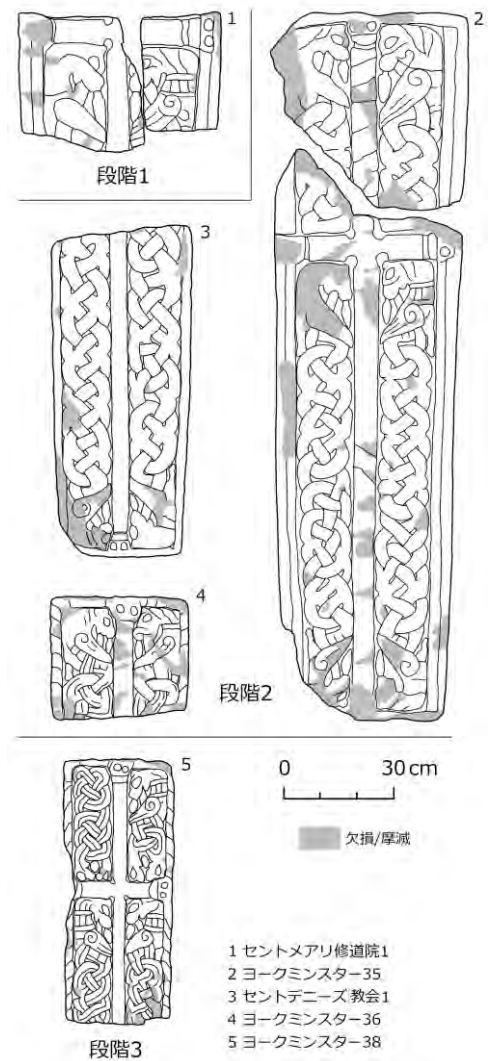


図3 ヨーク I 類の獣文の変遷

表 1 ヨーク I 類の属性相関

資料名	獣の位置	左右の対の描き分けに関わる属性						鼻先の装飾	各部の施文技術	
		鬣	羽の渦巻	羽の皺	首の装飾	寸法	段階		技術型式	該当部分
セントメアリ修道院1	左下文様区-上段	×	×	×	細い首輪	左<右	1	素檜形	aI平	獣の細部装飾
	右下文様区-上段	○	○	○	太い首輪			素檜形	D'平 D'IV平	
ヨークミンスター35	左上文様区	○	×	×	×	左<右	2	中間形	aI平 D'平 D'IV平	獣の細部装飾 獣の輪部 組紐
	右上文様区	○	○	○	細い首輪			素檜形		
	左下文様区-上段	?	?	?	?	左=右		中間形		
	右下文様区-上段	○	○	○	太い首輪			水滴形		
	左下文様区-下段	?	○	○	?	左=右		水滴形		
	右下文様区-下段	○	○	?	細い首輪			水滴形		
セントデニーズ教会1	左下文様区-下段	○	○	?	?	左>右	2	中間形	aI平	獣の細部装飾 獣の輪部 組紐
	右下文様区-下段	×	?	×	細い首輪			水滴形	D'平 D'IV平	
ヨークミンスター36	左上文様区	○	○	○	×	左<右	2	中間形	aI平	獣の細部装飾 獣の輪部 組紐
	右上文様区	○	○	○	細い首輪			中間形	D'平 D'IV平	
ヨークミンスター38	右上文様区	○	○	○	太い首輪	左=右	3	水滴形	aI平	獣の細部装飾 獣の輪部 組紐
	左下文様区-上段	○	○	○	太い首輪			水滴形	D'平	
	右下文様区-上段	○	○	×	太い首輪			水滴形	D'IV平	

備考) 寸法における左右の表記に関して、左下・右下文様区の下段の倒立している一対の場合は、向かって左側の獣を「右」、向かって右側の獣を「左」とする。施文技術型式は図4・5と対応。

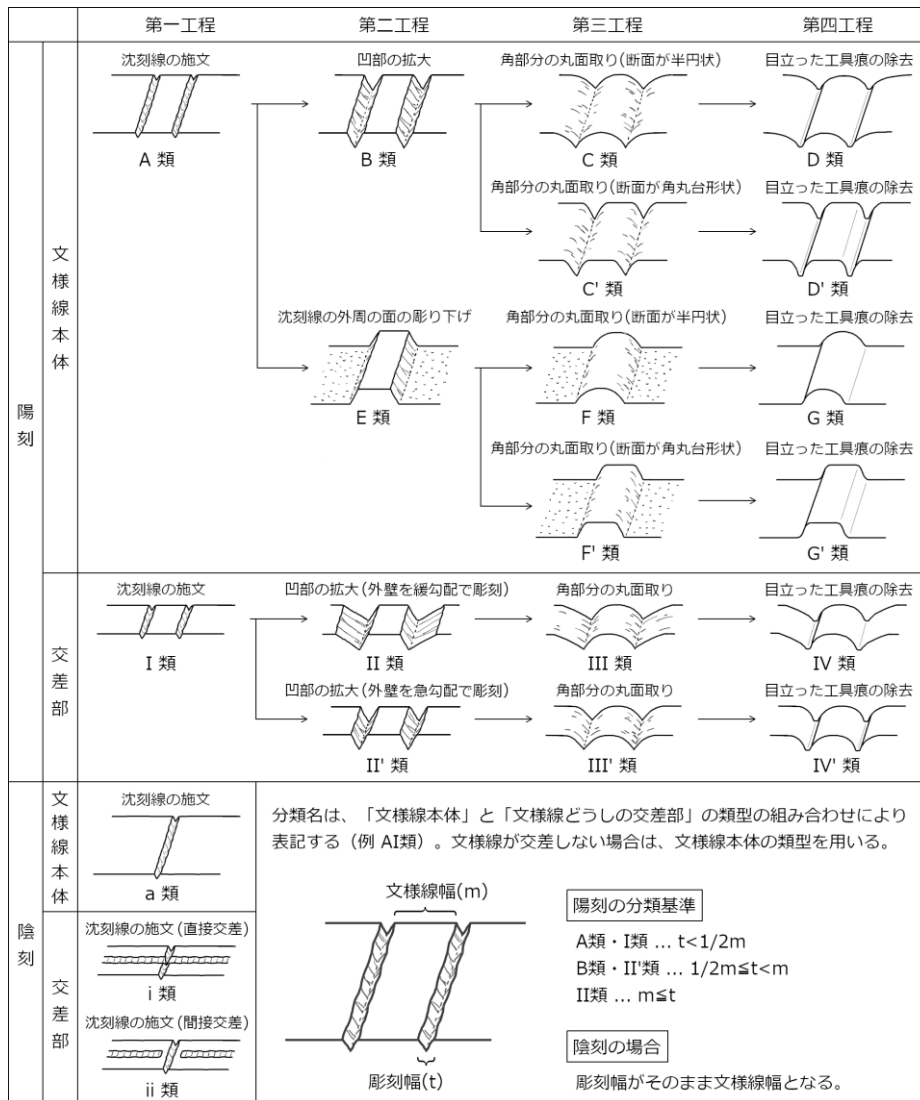


図 4 彫刻工程と文様線形態の分類

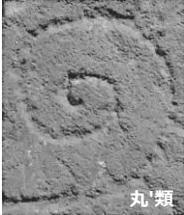
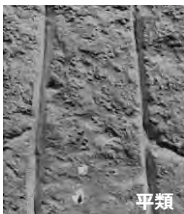



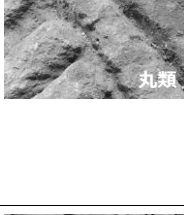

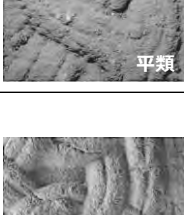
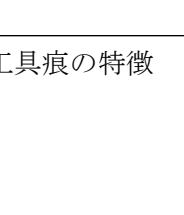


類型	仕様が想定される工具	想定できる工具の用い方	工具痕の特徴	
第一工程	丸類 丸ノミ	下書き線の進行方向に対し左右それぞれに数ミリ離れた位置から、同線に向けて斜め下の角度でノミを打つ。一点を打ち終えるごとにノミ先を当てる位置をずらす。	断面がV字形を呈する幅4~11mmの沈刻線がみられる。沈刻線の壁面に縦方向にはしる袈れがみられる。	 
	丸類 丸ノミ	下書き線上に、施文面に対し垂直にノミ先を当て、真上から打つ。一点を打ち終えるごとにノミ先を当てる位置をずらす。	径2~3mmもしくは径6~8mmの列点文状の窪みからなる沈刻線(凹部)がみられる。前者は先端が鋭い丸ノミ、後者は先端がやや潰れた丸ノミによる痕跡と考える。	 
	平類 平ノミ 銀杏ノミ	第一工程丸類と同様の作業を行う。	断面がV字形を呈する幅4~6mmの沈刻線がみられる。通常、沈刻線の壁面に縦線が平行してみられるが、丁寧な作業により壁面が平滑になり、ノミを打った単位が確認できない場合もある。平ノミと銀杏ノミの識別はほぼ不可能である。	 
	平類 平ノミ	下書き線上に、施文面に対し浅い角度で同線と平行にノミの刃の片方の角を当て、線が進む方向に向けて連続的に打ちながら進む。	断面がV字形を呈する幅1.5~2.5mmの沈刻線がみられる。彫刻幅はノミの厚みに対応する。沈刻線の壁面は平滑である。	 
第二工程	丸類 丸ノミ	文様線本体の形態がB類の場合 第一工程丸類と同様の作業を行い、凹部を拡大する。	第一工程より凹部が幅広で深い。凹部壁面の様子は第一工程丸類と同様である。	 
		文様線本体の形態がE類の場合 第一工程で形成された沈刻線の外周の面に対し、第一工程丸類と同じ要領でノミを打つ作業を繰り返す。	第一工程丸類と同様の痕跡が底面一面にみられる。凹部壁面の痕跡は、第一工程のまま残存する。	
	平類 平ノミ 銀杏ノミ	文様線本体の形態がB類の場合 第一工程丸類と同様の作業を行い、凹部を拡大する。	第一工程より凹部が幅広で深い。凹部壁面の様子は、第一工程平類と同様である。	
		文様線本体の形態がE類の場合 第一工程で形成された沈刻線から周辺に向けてノミの刃を当て、施文面に対し浅い角度で連続的に打ちながら進む作業を繰り返す。	平行する線が底面一面にみられる。凹部壁面の痕跡は、第一工程のまま残存する。	
第三工程	丸類 丸ノミ	様々な角度で文様線の角にノミ先を当て、軽い力で打つ作業を繰り返す。	角のない文様線がみられる。深さ1mm程度の点状の窪みが、文様線上部に無数にみられる。底部の痕跡は、第二工程のまま残存する。	 
	平類 平ノミ 銀杏ノミ	様々な角度で文様線の角にノミの刃を当て打つ作業を繰り返す。	角のない文様線がみられる。文様線上部は、ノミを打った単位が分からないほど滑らかである。底部の痕跡は第二工程のまま残存する。	
第四工程	楕類 楕刃ノミ	文様線本体の形態がG類/G'類の場合のみが該当 第二工程平類と同様の作業を丁寧に行う。第三工程までを丸ノミで作業した場合のみが対象と思われる。	フォークで撫でたかのような、平行する複数の細く浅い線が底面一面にみられる。楕刃の刃数を読み取るのは困難である。	 
	平類 平ノミ 銀杏ノミ (ヤスリ)	第二工程平類と同様の作業を丁寧に行う。もしくはノミの刃で擦る。楕刃ノミで目立った凹凸を除去したのち平ノミ/銀杏ノミで仕上げる場合もある。ヤスリで擦る可能性もある。	文様線および底面が滑らかな状態を呈する。平ノミ・銀杏ノミ・ヤスリの識別はほぼ不可能である。	

図5 工具の種類と用法の分類および工具痕の特徴

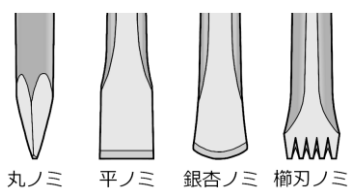


図6 使用想定工具の刃部形態

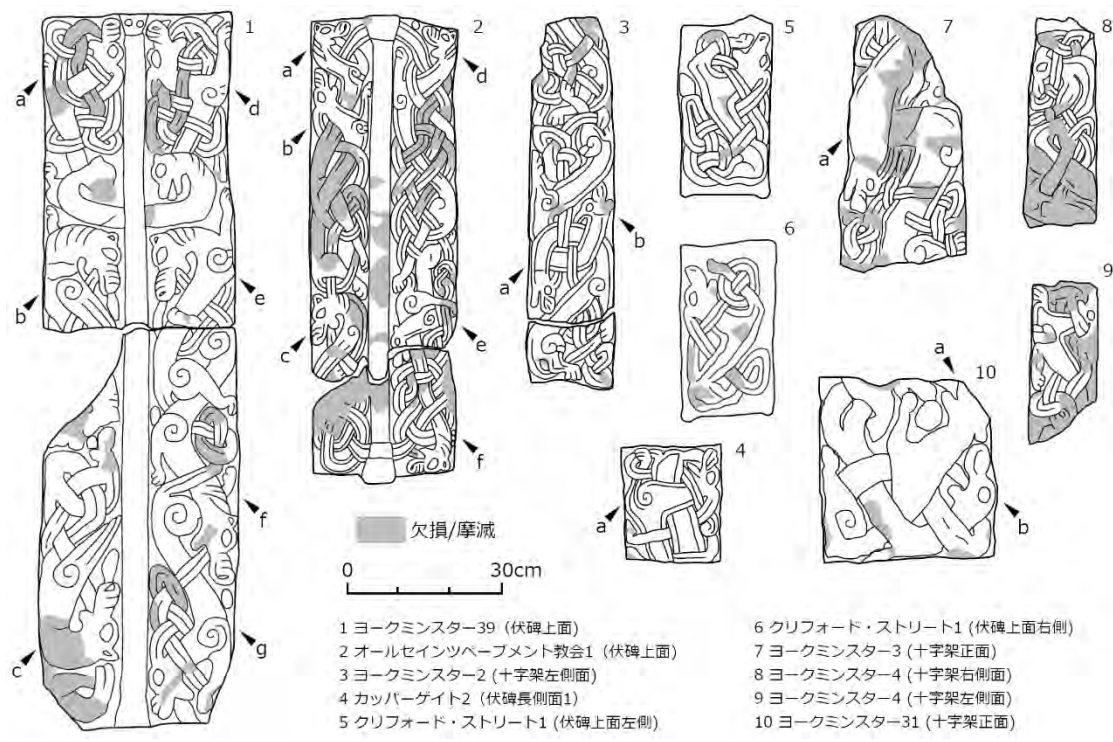


図7 ヨークII類

表2 ヨークII類の属性相関

資料名	器種	獣の位置	辮髪	耳	鬚	渦巻	鼻の皺	表現	各部の施文技術	
									技術型式	該当部分
ヨークミンスター39	伏碑	上面-a	○	×	×	?	○	巧	ai平 CIV平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
		上面-d	○	×	×	○	○			
		上面-e	×	○	○	○	○			
		上面-f	×	○	○	○	○			
オールセイントツペーブメント教会1	伏碑	上面-a	×	○	○	○	○	巧	ai平 CIV平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
		上面-b	○	×	×	○	○			
		上面-d	×	○	○	○	○			
		上面-e	×	○	×	○	?			
ヨークミンスター2	十字架	左側面-a	○	×	×	○	○	拙	ai平 D'IV平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
		左側面-b	○	×	×	○	○			
カッパーゲイト2	伏碑	長側面1-a	○	×	×	○	○	拙	ai平 BII平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
クリフォード・ストリート1	伏碑	上面左側	○	×	×	×	×	拙	ai平 CIV平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
		上面右側	○	×	×	×	×			
ヨークミンスター3	十字架	正面-a	○	×	×	?	○	拙	ai平 CIV平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
ヨークミンスター4	十字架	右側面	○	×	×	?	×	拙	ai平 CIV平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
		左側面	○	?	×	○	?			
ヨークミンスター31	十字架	正面-a	×	○	×	○	?	拙	ai平 B1平	獣の細部装飾 獣の輪郭・組紐
		正面-b	○	×	×	?	×			

備考) 獣の位置は図7と対応。施文技術型式は図4・5と対応。薄い網掛けは獣文1の特徴、濃い網掛けは獣文2の特徴を示す。

主要参考文献

- Hope-Taylor, B. 1971. *Under York Minster: Archaeological Discoveries 1966-1971*. The Dean and Chapter of York, York.
- Lang, J.T. 1991. *Corpus of Anglo-Saxon Stone Sculpture Vol. III Eastern Yorkshire*. Oxford University Press, Oxford.
- Phillips, D. 1985. *Excavations at York Minster Vol. II The Cathedral of Archbishop Thomas of Bayeux*. Royal Commission on the Historical Monuments of England, London.
- Townend, M. 2014. *Viking Age Yorkshire*. Blackthorn Press, Pickering.